

学校だより

第3号

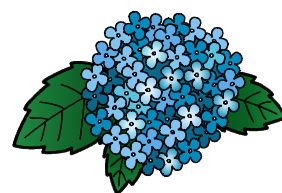


平成27年5月29日発行

梅雨を迎えて

校長 鈴木 久之^{ひさの}

5月17日（日）に行われた運動会には、保護者の皆様、地域の皆様に多数、御参観いただき、子どもたちへの温かい御声援をお送りくださり、心から感謝申し上げます。おかげさまで、応援席と児童生徒席が一体となった素晴らしい運動会となりました。



子どもたちと教職員の真剣に取り組む姿から、やる気あふれる様子を見ていただくことができたと思っています。子どもたちの心と体を育む大切な体験ができたことを嬉しく思います。

雨の日、校舎前の樹木が一粒一粒の雨を深く吸い込み、緑鮮やかに変わっていきます。

草木の成長にとって欠くことのできないものが日光と水です。雨と晴れがちょうどよいバランスで繰り返され、幹や枝は大きくなり、葉は勢いよく生い茂ります。雨ばかりでは、植物は根が腐って育ちませんし、晴ればかりでは水分が不足し枯れてしまいます。

このように、植物の成長には、バランスのよい環境が影響し合うことが必要です。

これは、子どもたちの心の成長にも言えることです。それは「やさしさ」と「きびしさ」であり、両者がバランスよく影響することで、子どもたちの豊かな心が育まれます。「やさしさ」だけでは、甘えやわがママが生まれます。逆に「きびしさ」だけでは、気持ちやすさんだり、いらいらしたりします。

私たち大人が、厳しくも優しく、子ども一人一人のよさや可能性を認めながら接することで、木々の新緑のように、それぞれの色合い（子どもの個性）がより一層輝きを放つのだと思います。